

1. プログラムの目的

眼科疾患は小児から高齢者まで幅広い年齢層が対象で、内科的治療だけでなく外科的治療も必要とし、幅広い医療技能の習得が求められています。東邦大学医療センター佐倉病院眼科専門研修プログラムでは、以下の眼科医の育成を目指します。

1. 一般眼科学に精通し、専門性の高い眼科治療にも対応できる眼科医
2. 一般診療所の医師のみならず総合病院の眼科医としてやっていけるだけの必要かつ十分な技術を身につけ、将来地域で活躍できる眼科医
3. 診療技能のみならず、学会発表や論文作成を通じて科学的に思考できる眼科医

2. 指導医と専門領域

指導医名に続く（ ）は役職および専門領域

専門研修基幹施設：東邦大学医療センター佐倉病院

（按分前手術件数：年間 内眼手術 2495 件、外眼手術 218 件、レーザー手術 325 件）

プログラム統括責任者：前野貴俊（診療科長）（4. 網膜硝子体・ぶどう膜）

指導医管理責任者：産賀真（助教）（3. 白内障）

指導医： 昌原英隆（助教）（7. 他科診療連携）

坂本理之（助教）（2. 緑内障）

吉田いづみ（助教）（6. 神経眼科、眼窩、眼付属器）

専門医： 永岡卓（助教）（白内障）

酒井祐佳（医員）（屈折矯正、斜視、弱視）

東邦大学医療センター佐倉病院では、幅広い分野の紹介患者があり、平成 29 年度の手術件数は、斜視 43 件、網膜硝子体 769 件、白内障 1605 件、緑内障 109 件、角膜移植 1 件と眼科専門医が研修すべき、ほぼすべての手術を施行しています。当教室では、眼科 6 領域である、角結膜、緑内障、白内障、網膜硝子体・ぶどう膜、屈折矯正・弱視・斜視、神経眼科・眼窩・眼付属器のそれぞれに専門家が在籍しています。専門研修基幹施設では、6 つの専門外来を設置しています（角結膜、緑内障、白内障、網膜硝子体・ぶどう膜、屈折矯正・弱視・斜視、神経眼科・眼窩・眼付属器）。従って、どの分野においても偏りなく広く深く最新医療を学ぶことができます。専門研修基幹施設および専門研修連携施設において十分な外来症例、手術件数を経験可能であり、到達目標を大きく上回ることが可能です。研修修了時には基本的疾患の治療に関して独り立ちしていることが可能となるカリキュラムです。当教室は専門研修基幹施設である東邦大学医療センター佐倉病院（千葉県）の他に近隣の佐倉市内と東京都と大阪府に専門研修連携施設を有します。専門研修連携施設は大学附属病院、眼科専門病院、地域中核病院であり、全国でも有数の症例数を誇るため臨床経験をつむことができます。また佐倉市の専門研修連携施設は大学で経験できない地域医療を学ぶことができます。東邦大学医療センターは他に東京都内に 2 施設あります。東邦大学医療センター間のつながりもあり、大森病院や大橋病院より月に一度の角膜専門外来、緑

内障専門外来を設けて協力体制を敷いています。この多彩な現場を活かし、専門研修基幹施設だけでは経験が不足しがちな初期の一般的な疾患や眼科救急医療など幅広く研修を行える場を提供します。大学附属病院での最先端の専門的診療経験と地域中核病院、眼科専門病院での即戦力となる臨床経験によって、眼科専門医を育てることが当プログラムの目指すところです。

3. 専門研修連携施設

研修施設の分類

- 専門研修基幹施設：東邦大学医療センター佐倉病院
- 専門研修連携施設 A（6 施設）：日本眼科学会指導医もしくはそれに準ずる専門医が在籍し、年間手術症例数 500 件以上またはそれに準ずる病院
- 専門研修連携施設 B（1 施設）：日本眼科学会専門医が在籍し、地域医療を担う病院
専門研修連携施設 B に該当する施設においては、東邦大学医療センター佐倉病院の専門研修指導医が必ず週 1 回以上指導を行います。
- 専門研修連携施設 A
 1. 医療法人きつこう会 多根記念眼科病院
(按分前手術件数：年間 内眼手術 4385 件、外眼手術 1682 件、レーザー手術 609 件)
指導管理責任者：櫻井寿也
専門医：西川憲清、櫻井寿也、川村肇、井上智之、福岡佐知子、高岡源、繪野亜矢子、森田真一、小西舞、山本裕弥、真野福太郎 9 名
按分指導医：西川憲清、川村肇、福岡佐知子、森田真一 4 名
 2. 大阪大学医学部附属病院
(按分前手術件数：年間 内眼手術 2843 件、外眼手術 442 件、レーザー手術 773 件)
指導医管理責任者：西田幸二
指導医：不二門 尚、前田 直之、辻川 元一、川崎 諭、坂口 裕和、松下 賢治、佐藤 茂、森本 壮、臼井 審一、橋田 徳康、高 静花、三木 篤也、相馬 剛至、大家 義則、西田 健太郎、丸山和一、福嶋 葉子、原 千佳子、大浦 嘉仁、若林 卓 21 名
按分指導医：大浦 嘉仁
 3. 独立行政法人 労働者健康安全機構 関西労災病院
(按分前手術件数：年間 内眼手術 1,200 件、外眼手術 100 件、レーザー手術 100 件)
指導管理責任者：渡辺 仁
按分指導医：中田 互
 4. 地方独立行政法人 市立東大阪医療センター
(按分前手術件数：年間 内眼手術 1,069 件、外眼手術 25 件、レーザー手術 130 件)
指導管理責任者：大下 貴志
按分指導医：松村 永和

5. 東邦大学医療センター大森病院

(按分前手術件数：年間 内眼手術 1582 件、外眼手術 275 件、レーザー手術 293 件)

指導管理責任者：堀 裕一

指導医：松本 直、柴 友明、岡島 行伸、鈴木 佑佳、有村 哲

6. 東邦大学医療センター大橋病院

(按分前手術件数：年間 内眼手術 1562 件、外眼手術 55 件、レーザー手術 193 件)

指導管理責任者：富田 剛司

指導医：八木 文彦、石田 恭子、榎本 暢子、安樂 礼子

- 専門研修連携施設 B

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 聖隷佐倉市民病院

(按分前手術件数：年間 内眼手術 319 件、外眼手術 2 件、レーザー手術 178 件)

指導管理責任者 専門医：小野田康孝

- 全指導医数：12 名

各学年 9 名 合計 36 名/4 学年 指導医の合計 12 名

指導医 1 名につき 3 名までの専攻医の指導が可能と考えると、指導できる専攻医数は $12 \times 3 \div 4 = 9$ となり、1 学年 9 名専攻医募集が可能となるが、

当科は 1 学年 5 名の募集とした。

4. 研修開始時期と期間

平成 31 年 4 月 1 日～平成 35 年 3 月 31 日

研修を行う専門研修連携施設および研修時期・期間は、専攻医ごとに適宜変更があります。

応募方法

1) 日本国の医師免許証を有する者

2) 医師臨床研修修了登録証を有する者（第98回以降の医師国家試験合格者について必要、平成31年3月31日までに臨床研修を修了する見込みの者を含む）

応募期間：平成30年10月1日～平成31年3月15日

- 選考方法：書類選考および面接により選考する。面接の日時・場所は別途通知します。
- 応募書類：願書、希望調査票、履歴書、医師免許証の写し、医師臨床研修修了登録証の写し。
- 問い合わせ先および提出先

〒285-8741 千葉県佐倉市下志津 564-1

東邦大学医療センター佐倉病院 眼科

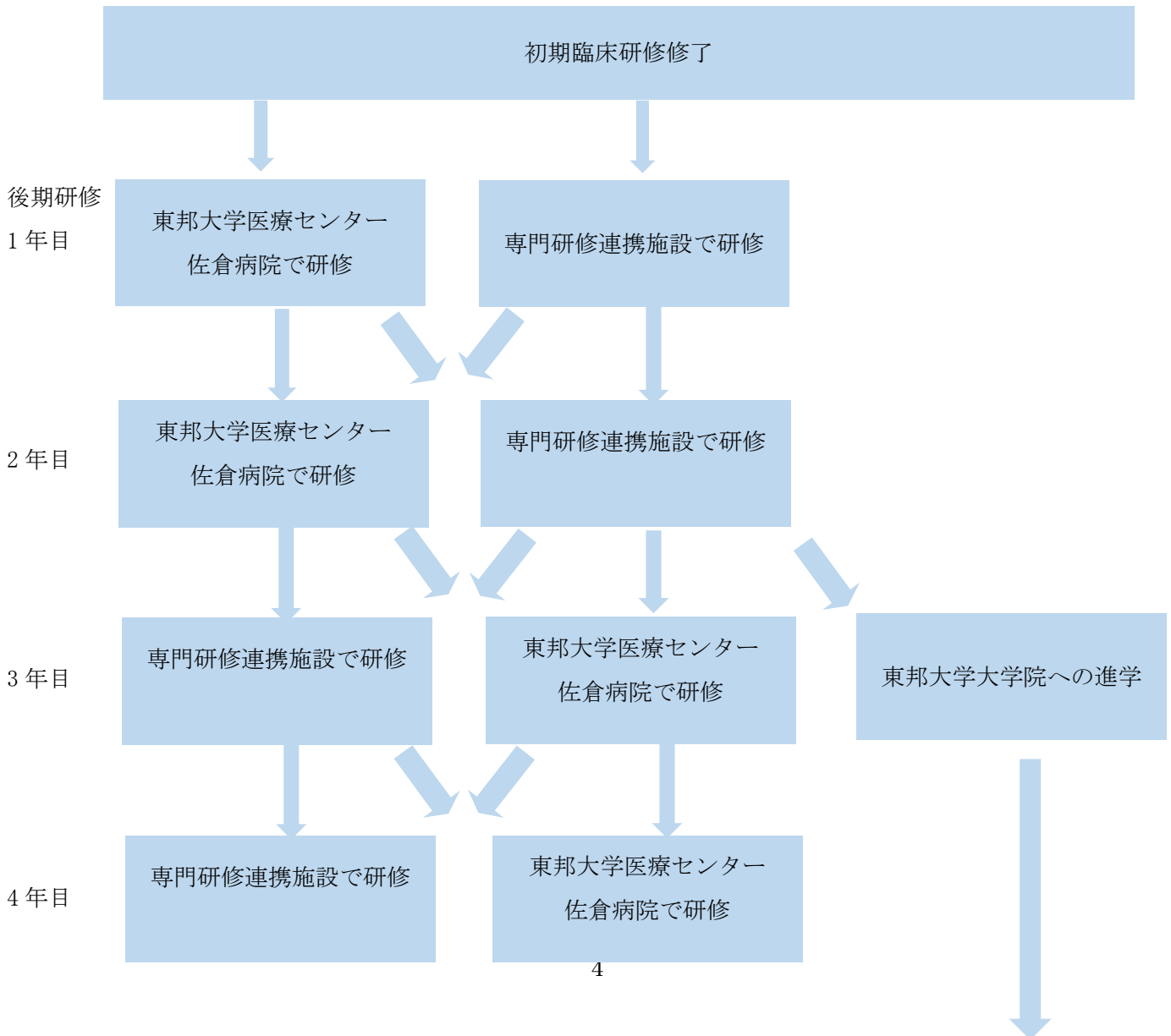
電話：043-462-8811 Fax：043-463-2381

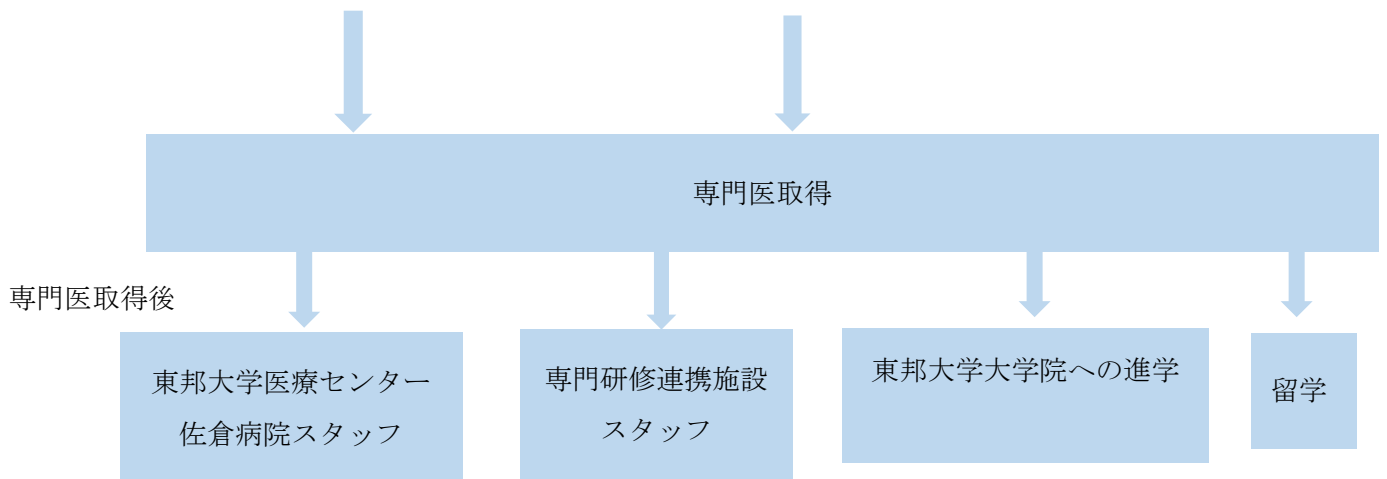
E-mail: ganka-sec@sakura.med.toho-u.ac.jp

5. プログラム概要

本プログラムは1つの専門研修基幹施設と7つの専門研修連携施設で施行される。専門研修連携施設は、日本眼科学会指導医もしくはそれに準ずる指導医が在籍する地域の中核病院でありそれぞれの特徴を活かした眼科研修を行い、日本眼科学会が定めた研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験する。

4年間の研修期間中、1年目、あるいは2年目のどちらかを専門研修基幹施設で研修する。1年目は東邦大学医療センター佐倉病院か、専門研修連携施設のいずれかで研修を行う。東邦大学医療センター佐倉病院や専門研修連携施設の病院群は症例数が豊富で救急疾患、希少症例、難病を経験し、内眼手術件数、指導医数も多いので1年目に診察技術、手術手技の基本を習得する。2年目以降は専門研修連携施設、もしくは東邦大学医療センター佐倉病院で研修する。これにより地域に密着した医療、やや高度な手術を含むより多くの症例を経験することができる。東邦大学医療センター佐倉病院を選択すれば、眼科のより専門領域に特化した研修が可能となる。3年目以降に東邦大学大学院に進学し、研修を行いながら臨床研究、基礎研究を行うことも可能である。専攻医の希望にできるだけ沿ったプログラムを構築するが、どのコースを選んでも最終的に到達目標に達することができるようにローテーションを調整する。





研修コース例

例 1

1年目	東邦大学医療センター佐倉病院での研修
2年目	専門研修基幹施設での研修
3年目	専門研修基幹施設での研修
4年目	東邦大学医療センター佐倉病院での研修
5年目	東邦大学医療センター佐倉病院での研修 専門医認定試験受験 認定

例 2

1年目	専門研修基幹施設での研修
2年目	東邦大学医療センター佐倉病院での研修
3年目	専門研修基幹施設での研修
4年目	専門研修基幹施設での研修
5年目	東邦大学医療センター佐倉病院での勤務 専門医認定試験受験 認定

例 3

1年目	専門研修基幹施設での研修
2年目	東邦大学医療センター佐倉病院での研修
3年目	東邦大学医療センター佐倉病院 (東邦大学大学院進学)
4年目	東邦大学医療センター佐倉病院 (東邦大学大学院)
5年目	東邦大学医療センター佐倉病院 (東邦大学大学院) 専門医認定試験受験 認定

6. 研修の週間計画

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診 病棟業務 外来業務	手術 専門外来	病棟業務 外来業務	病棟回診 手術 専門外来	医局カンファレンス 病棟回診 外来業務
午後	外来業務 病棟業務	手術 病棟業務	外来業務 病棟業務	手術 症例カンファレンス	外来業務 病棟業務

専門研修基幹施設：
東邦大学医療センター佐倉

病院

- その他の必要な当直業務を行う。
- 各施設主催の講習（医療安全、感染対策、医療倫理）に規定数参加する。
- 夏期・冬期休暇有り
- カンファレンスや勉強会、抄読会への積極的な参加を推奨する。
- 年に2回、学術集会と懇親会があり、知識を深めるとともに地域医療に貢献しているOBとの交流で見識を深める。

専門研修連携施設：代表例を示す。カンファレンスや手術の曜日、時間には若干の違いがあります。

	月	火	水	木	金
午前	外来業務	手術	術後回診 外来業務	手術	術後回診 外来業務
	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
午後	外来業務	手術	外来業務	手術 カンファレンス	外来業務

7. 到達目標

専攻医は、東邦大学医療センター佐倉病院眼科研修プログラムによる専門研修により、専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性、社会性を身につけることを目標とする。

i. 専門知識

医師としての基本姿勢・態度、眼科6領域、他科との連携に関する専門知識を習得する。眼科6領域には、1)角結膜、2)緑内障、3)白内障、4)網膜硝子体・ぶどう膜、5)屈折矯正・弱視・斜視、6)神経眼科・眼窩・眼付属器が含まれる。到達目標、年次ごとの目標は別に示す。

ii. 専門技能

- ① 診察：患者心理を理解しつつ問診を行い、所見を評価し、問題点を医学的見地から確実に把握できる技能を身につける。
- ② 検査：診断、治療に必要な検査を実施し、所見が評価できる技能を持つ。

- ③ 診断：診察、検査を通じて、鑑別診断を念頭におきながら治療計画を立てる技能を持つ。
- ④ 処置：眼科領域の基本的な処置を行える技能を持つ。
- ⑤ 手術：外眼手術、白内障手術、斜視手術など、基本的な手術を術者として行える技能を持つ。
- ⑥ 手術管理など：緑内障手術、網膜硝子体手術の助手を務め、術後管理を行い合併症に対処する技能を持つ。
- ⑦ 疾患の治療・管理：視覚に障害がある人へロービジョンケアを行う技能を持つ。

*年次ごとの研修到達目標は次項に示す。

iii. 学問的姿勢

- ① 医学、医療の進歩に対応して、常に自己学習し、新しい知識の修得に努める。
- ② 将来の医療のために、基礎研究や臨床研究にも積極的に関わり、リサーチマインドを涵養する。
- ③ 常に自分自身の診療内容をチェックし、関連する基礎医学・臨床医学情報を探索し、Evidence-Based Medicine (EBM)を実践できるように努める。
- ④ 学会・研究会などに積極的に参加し、研究発表を行い、論文を執筆する。

iv. 医師としての倫理性、社会性

- ① 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨く。
- ② 誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されるように努める。
- ③ 診療記録の適確な記載ができるようにする。
- ④ 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できるようにする。
- ⑤ 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得する。
- ⑥ チーム医療の一員としての実践と後進を指導する能力を修得する。

5. 年次ごとの到達目標

専攻医の評価は、プログラム統括責任者、専門研修指導医、専攻医の3者で行う。専門研修指導医は3か月ごと、プログラム統括責任者は6か月ごとの評価を原則とする。

- ① 専門研修1年目：眼科医としての基本的臨床能力および医療人としての基本的姿勢を身につける。
 医療面接・記録：病歴聴取、所見の観察、把握が正しく行え、診断名の想定、鑑別診断を述べる事が出来るようにする。
 検査：診断を確定させるための検査の意味を理解し、実際に検査を行うことが出来るようにする。
 治療：局所治療、内服治療、局所麻酔の方法、基本的な手術治療を行うことが出来るようにする。
- ② 専門研修2年目：専門研修1年目の研修事項を確実に出来ることを前提に、眼科の基本技能を身につけていく。
- ③ 専門研修3年目：より高度な技術を要する手術手技を習得する。学会発表、論文発表を行うための基本的知識を身につける。後進の指導を行うための知識、技能を身につける。
- ④ 専門研修4年目以降：3年目までの研修事項をより深く理解し自分自身が主体となって治療を進めていけるようにする。後進の指導も行う。